九州地方プリント No.1

答えの 選択肢の ○を 1つだけ ぬる。
まちがえたら けしゴムで けす。

名前

出席番号　　必要な人は書く

問1　日本の茶の生産量に関する統計において、1位の静岡県（約38%）に次いで、全国の約3割（約31%）を占める鹿児島県では、ある特殊な地形を利用して茶の栽培が盛んに行われています。この地形の名称と農業上の特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。

- ○ カルデラと呼ばれ、火山が噴火してくぼんだ地形を利用して大規模な稲作が行われている。
- ○ 三角州と呼ばれ、河口付近に砂泥が積もった平坦な土地を利用して米の二期作が行われている。
- ○ 扇状地と呼ばれ、川が山地から平地に出る場所に堆積した土砂を利用して果樹園が作られている。
- ○ シラス台地と呼ばれ、水はけが良い性質を利用して茶やサツマイモなどの畑作が行われている。

問2　沖縄県の産業構造において、製造業などの第二次産業の割合が低く、サービス業や小売業などの第三次産業の割合が突出して高い理由として、適切なものを選択してください。

- ○ 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。
- ○ 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。
- ○ 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。
- ○ 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術（ICT）関連の製造工場がすべて県外に移転したため。

問3　1970年代の大分県において、県内での雇用を増加させ、大都市圏への人口流出を抑える要因となった政府による都市開発の指定制度を何といいますか。

- ○ 高度経済成長拠点
- ○ 情報公開特区
- ○ 新産業都市
- ○ 学術研究都市

問4　宮崎県において、農業産出額に占める畜産の割合が他の都道府県と比較して際立って高い理由として、自然環境や土地利用の背景をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。

- ○ 冬の寒さが厳しく、ビニールハウスを利用した施設園芸農業よりも、室内で行う畜産業の方が効率が良いため。
- ○ 広大なシラス台地が広がり水田稲作に適さない土地が多いため、広域な土地を利用した家畜の飼育が行われてきた。
- ○ 大消費地である東京圏に隣接しており、鮮度が重要な生乳や精肉を短時間で出荷できる有利な立地条件にあるため。
- ○ 年間を通して降水量が極めて少なく乾燥しているため、農作物の栽培よりも家畜の管理に適している。

問5　九州地方南部のシラス台地において、古くから水田稲作ではなく、サツマイモなどの畑作や畜産業が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質から説明したものとして適切なものはどれですか。

- ○ 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を阻害する性質を持っていたため。
- ○ 地盤が非常に軟弱であり、重い農機具を利用した大規模な耕作に適さなかったため。
- ○ 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。
- ○ 標高が高く気温が低いため、熱帯性の作物である稲の栽培が困難だったため。

問6　宮崎県などの温暖な地域で見られる、ビニールハウスや温室などの施設を利用して、本来の時期よりも野菜の栽培時期を早める工夫を何といいますか。

- ○ 近郊農業
- ○ 抑制栽培
- ○ 促成栽培
- ○ 露地栽培

問7　鹿児島県の桜島周辺における降灰被害について、冬の2月には降灰が主に火口の南東方向（海側）へ広がるのに対し、夏の8月には火口の北西方向（鹿児島市街地側）へと広がることが統計的に示されています。このように、時期によって降灰の範囲が変化する要因として最も適切な説明はどれですか。

- ○ 日本付近の上空を流れる偏西風が、季節によって完全に消滅するため
- ○ 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため
- ○ 夏は気温が高いため、噴煙が上昇気流に乗って拡散されなくなるため
- ○ 周辺を流れる日本海流（黒潮）が、季節によって流路を大きく変えるため

問8　2022年の東京都中央卸売市場における菊の出荷状況において、3月の総出荷量は約3000万本で、そのうち沖縄県産は約1200万本と4割近くを占めています。一方、9月の総出荷量は同程度ですが、沖縄県産はわずか3万本にとどまっています。このように、沖縄県が冬から春にかけての出荷に特化している理由として、経済的な背景をふまえて説明したものを選びなさい。

- ○ 冬の温暖な気候を利用して暖房費などの生産費を抑えることで、遠方の消費地へ運ぶための高い輸送費を補い収益を上げている。
- ○ 夏の台風被害を避けるために冬の栽培に特化しており、余った労働力を夏場はサトウキビ収穫に集中させることで生産費を下げている。
- ○ 本州の農家に比べて土地代が圧倒的に安いため、大規模な農地で生産を行うことで、輸送費の差を考慮しても十分な利益が出る仕組みになっている。
- ○ 冬場は航空運賃が安くなるため、その時期に合わせて集中的に出荷を行うことで、生産費と輸送費の合計を最小限に抑えている。

九州地方プリント No.1

赤い ○ が 正しい 答え。
まちがえた 問は もう一度 とこう。

こたえ

問1 日本の茶の生産量に関する統計において、1位の静岡県（約38%）に次いで、全国の約3割（約31%）を占める鹿児島県では、ある特殊な地形を利用して茶の栽培が盛んに行われています。この地形の名称と農業上の特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。

- ○ カルデラと呼ばれ、火山が噴火してくぼんだ地形を利用して大規模な稲作が行われている。
- ○ 三角州と呼ばれ、河口付近に砂泥が積もった平坦な土地を利用して米の二期作が行われている。
- ○ 扇状地と呼ばれ、川が山地から平地に出る場所に堆積した土砂を利用して果樹園が作られている。
- ● シラス台地と呼ばれ、水はけが良い性質を利用して茶やサツマイモなどの畑作が行われている。

問2 沖縄県の産業構造において、製造業などの第二次産業の割合が低く、サービス業や小売業などの第三次産業の割合が突出して高い理由として、適切なものを選択してください。

- ○ 広大な平野を利用した機械化農業が推進され、農産物の加工から販売までを行う第六次産業が製造業に代わっているため。
- ● 亜熱帯の気候や独自の文化を求めて国内外から多くの観光客が訪れ、観光関連産業が県の経済を支えているため。
- ○ 県外からの輸送コストが高いため、原材料を輸入して製品を輸出する加工貿易型の工業が全く発達しなかったため。
- ○ 政令指定都市を中心とした都市圏が形成され、情報通信技術（ICT）関連の製造工場がすべて県外に移転したため。

問3 1970年代の大分県において、県内での雇用を増加させ、大都市圏への人口流出を抑える要因となった政府による都市開発の指定制度を何といいますか。

- ○ 高度経済成長拠点
- ○ 情報公開特区
- ● 新産業都市
- ○ 学術研究都市

問4 宮崎県において、農業産出額に占める畜産の割合が他の都道府県と比較して際立って高い理由として、自然環境や土地利用の背景をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。

- ○ 冬の寒さが厳しく、ビニールハウスを利用した施設園芸農業よりも、室内で行う畜産業の方が効率が良いため。
- ● 広大なシラス台地が広がり水田稲作に適さない土地が多いため、広域な土地を利用した家畜の飼育が行われてきた。
- ○ 大消費地である東京圏に隣接しており、鮮度が重要な生乳や精肉を短時間で出荷できる有利な立地条件にあるため。
- ○ 年間を通して降水量が極めて少なく乾燥しているため、農作物の栽培よりも家畜の管理に適している。

問5 九州地方南部のシラス台地において、古くから水田稲作ではなく、サツマイモなどの畑作や畜産業が盛んに行われてきた理由として、土壌の性質から説明したものとして適切なものはどれですか。

- ○ 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を阻害する性質を持っていたため。
- ○ 地盤が非常に軟弱であり、重い農機具を利用した大規模な耕作に適さなかったため。
- ● 火山噴出物でできた地層は水はけが非常に良く、水田に必要な水を貯めておくことが難しかったため。
- ○ 標高が高く気温が低いため、熱帯性の作物である稲の栽培が困難だったため。

問6 宮崎県などの温暖な地域で見られる、ビニールハウスや温室などの施設を利用して、本来の時期よりも野菜の栽培時期を早める工夫を何といいますか。

- ○ 近郊農業
- ○ 抑制栽培
- ● 促成栽培
- ○ 露地栽培

問7 鹿児島県の桜島周辺における降灰被害について、冬の2月には降灰が主に火口の南東方向（海側）へ広がるのに対し、夏の8月には火口の北西方向（鹿児島市街地側）へと広がることが統計的に示されています。このように、時期によって降灰の範囲が変化する要因として最も適切な説明はどれですか。

- ○ 日本付近の上空を流れる偏西風が、季節によって完全に消滅するため
- ● 季節風の影響により、季節ごとに卓越する風の向きが変化するため
- ○ 夏は気温が高いため、噴煙が上昇気流に乗って拡散されなくなるため
- ○ 周辺を流れる日本海流（黒潮）が、季節によって流路を大きく変えるため

問8 2022年の東京都中央卸売市場における菊の出荷状況において、3月の総出荷量は約3000万本で、そのうち沖縄県産は約1200万本と4割近くを占めています。一方、9月の総出荷量は同程度ですが、沖縄県産はわずか3万本にとどまっています。このように、沖縄県が冬から春にかけての出荷に特化している理由として、経済的な背景をふまえて説明したものを選びなさい。

- ● 冬の温暖な気候を利用して暖房費などの生産費を抑えることで、遠方の消費地へ運ぶための高い輸送費を補い収益を上げている。
- ○ 夏の台風被害を避けるために冬の栽培に特化しており、余った労働力を夏場はサトウキビ収穫に集中させることで生産費を下げている。
- ○ 本州の農家に比べて土地代が圧倒的に安いため、大規模な農地で生産を行うことで、輸送費の差を考慮しても十分な利益が出る仕組みになっている。
- ○ 冬場は航空運賃が安くなるため、その時期に合わせて集中的に出荷を行うことで、生産費と輸送費の合計を最小限に抑えている。